

# かずさの博物誌

## カジカガエル

～溪谷の歌い手～

文・写真／成田篤彦

2016.8.20



▲カジカガエルの生息地＝2006年5月3日 君津市



▲カジカガエルのオス（上）とメス（下）  
＝2006年5月3日 君津市



▲浮き石にいるカジカガエルのオス  
＝2012年6月10日 君津市

初夏、丘陵地の溪谷に降りてきました。

空は樹でおおわれ、清流が岩盤上をさらさらと流れています。

絞り水が、苔むした崖から滴り落ちていきます。

自然のクーラーが利いている感じで、「涼しくて気持ちが良い」と、しばらく岸辺に腰を下ろしていました。

すると、上流から、「ルルルルル、ケフケフケフ・・・」とフルートの音のような柔らかく澄んだ美声が聞こえてきました。

この美声の歌い手はカジカガエルのオスです。それに対抗するように、私の場所から少し上流で別のカエルが鳴きだしました。

体の向きを変えるとびたり鳴き止みます。溪流を見つめてもどこにいるのかわかりません。眼を凝らして探すと一匹のカジカ

ガエルのオスが石の上にちょこんと座っていました。

体色が石の色と全く同じで、暗褐色をしています。なかなか見つけられないわけです。

約十分経って、上流から再び、「ルルルルルケフケフケフ・・・」と鳴き声が聞こえました。

すると彼は下あごの膜を風船のように膨らまし、振動させて、大声で鳴き始めました。

そつと近づいたのですが、彼はずぐに水音もたてずに溪流にもぐっていききました。

上流へ向かう途中、岸辺にはカジカガエルのオタマジャクシがたくさん群れています。彼らは流されないように大きな口で岸辺の岩盤に吸い付いています。

かつては溪流が、成長したオタマジャクシであふれんばかりであったことを覚えていきます。

流れの底ではオスがメスを抱えています。

メスはオスよりも予想外に大きく最初に見つけた時は気味が悪いと感じたものです。

しかし、大きな眼、すべすべし

た皮膚、命がきらめいる感じがしました。

石を返すとカジカガエルの真っ黒な卵塊が現れました。

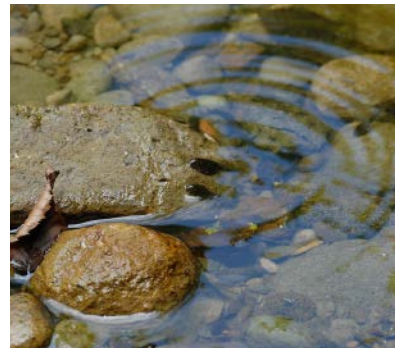
さて、万葉以来、風流人はカジカガエルの涼し気な美声を愛しました。上総でも少し前までは水盤で飼育し、鳴き声を楽しんでいました。

現在、他県では天然記念物に指定されている地域もあります。

カジカガエルが鳴く上総の溪谷は最も魅力的な自然の一つです。

このカジカガエルの鳴き声を多くの皆さんに楽しんで欲しいのですが、最近では砂防ダムが形成され、産卵場所が次第に失われています。そのためカジカガエルの数が減っています。それが、とても残念です。

▼カジカガエルのオタマジャクシ  
＝2008年7月25日 君津市



▲のどを膨らまして鳴くオス  
＝2007年4月26日 君津市

memo

カジカガエル

アオガエル科

日本固有種。千葉県指定重要保護生物。体長オス約四・五センチメートル、メス約七・五センチメートル。指先に吸盤がある。

本州、四国、九州の山地溪流に棲む。鳴くのは初夏～夏。寒くなると冬眠する。カジカの名は声のよい山のシカに対して河のシカと呼んだもの。